

# 大田区障がい者実態調査

## 結果速報(抜粋)

# 目次

---

## 1. 当事者の調査結果抜粋(18歳以上／18歳未満)

- (1) サービスを利用しやすくするために必要なこと(問14/問13)
- (2) 困りごとを相談しやすくするために必要なこと(問37/問38)
- (3) 障がい者への取組として充実させてほしいこと(問43/問45)
- (4) 家族への取組として充実させてほしいこと(問49/問52)

## 2. サービス提供事業所の調査結果抜粋

- (1) 医療的ケアへの対応(問11-1、11-2)
- (2) 困難事例への相談対応状況(問13-1)

※当資料に掲載している調査結果は、データクリーニング(矛盾回答や誤回答の訂正等)前の速報値です。

# 1. 当事者の調査結果抜粋(18歳以上／18歳未満)

## (1) サービスを利用しやすくするために必要なこと(問14/問13)

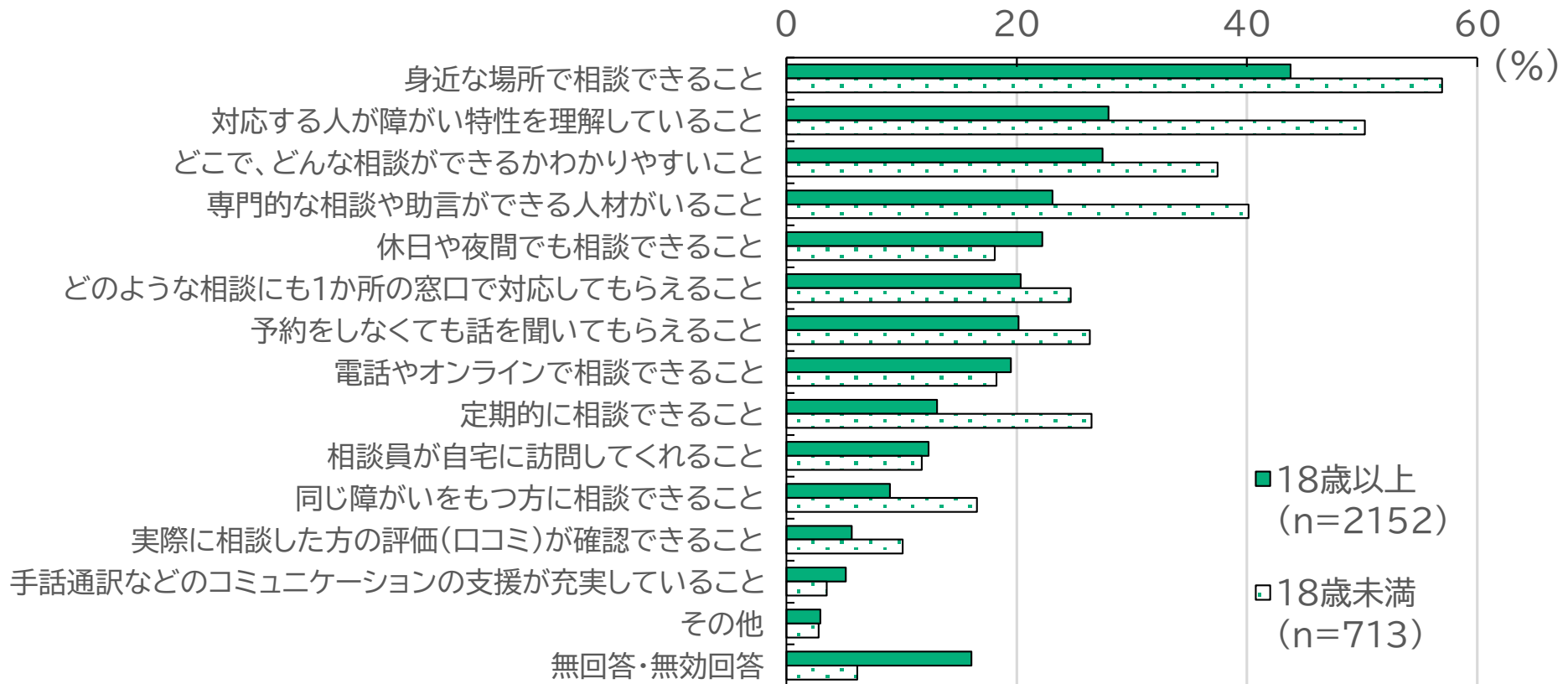
	18歳以上 (n=2152)	18歳未満 (n=713)
サービス利用に関する決まりや仕組みをわかりやすくすること	36.8%	50.1%
事業所を選べるように、わかりやすい説明や情報提供があること	24.0%	46.7%
自分に合った事業所を利用できること	20.8%	40.5%
通いやすい場所にサービスを利用できる施設・事業所があること	20.3%	49.6%
使いたいときに使えるように利用できる曜日・時間を増やすこと	16.0%	40.7%
サービスに携わるスタッフ・人材の知識・技術・意識を高めること	15.6%	43.1%
サービスに携わるスタッフ・人材の人数を増やすこと	14.1%	35.9%
重度の障がいや医療的ケアにも対応できること	9.7%	14.4%
サービスを提供している部屋や建物を広くすること	4.7%	18.8%
特に必要と思うことはない	9.4%	2.8%
その他	3.8%	7.2%
無回答・無効回答	33.5%	10.5%

※上位5項目に網掛けをしている

- ◆ サービスを利用しやすくするために必要なこととして、18歳以上と18歳未満で共通して上位に挙がっているのは、「サービス利用に関する決まりや仕組みをわかりやすくすること」「事業所を選べるように、わかりやすい説明や情報提供があること」「通いやすい場所にサービスを利用できる施設・事業所があること」「使いたいときに使えるように利用できる曜日・時間を増やすこと」となっている。

# 1. 当事者の調査結果抜粋(18歳以上／18歳未満)

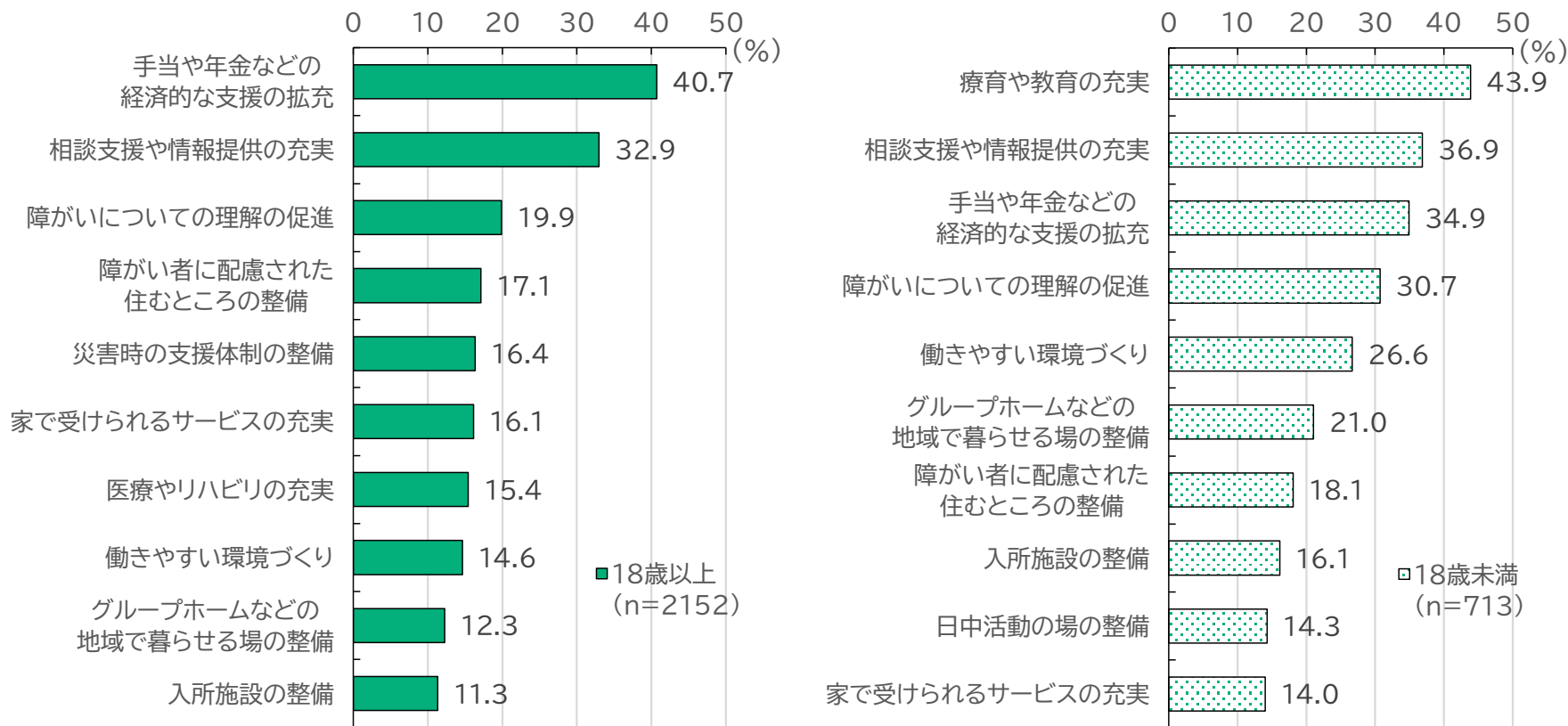
## (2) 困りごとを相談しやすくするために必要なこと(問37/問38)



◆ 困りごとを相談しやすくするために必要なことは、18歳以上でも18歳未満でも共通して、「身近な場所で相談できること」が最も多く、その他、「対応する人が障がい特性を理解していること」や「どこで、どんな相談ができるかわかりやすいこと」「専門的な相談や助言ができる人材がいること」などが上位となっている。

# 1. 当事者の調査結果抜粋(18歳以上／18歳未満)

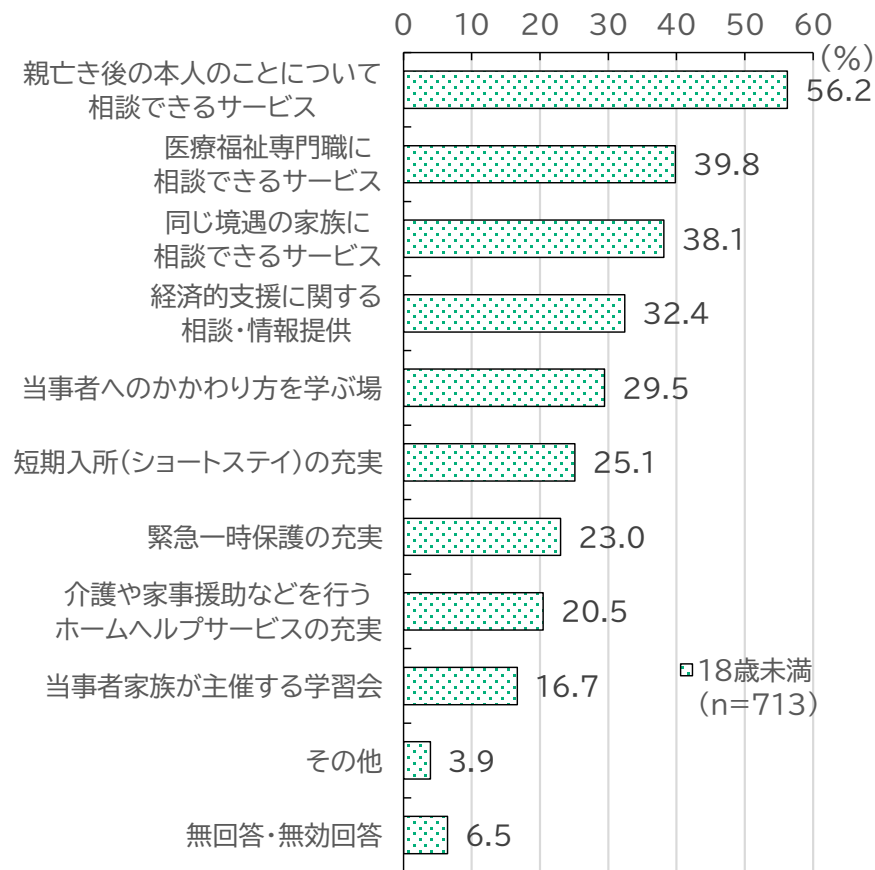
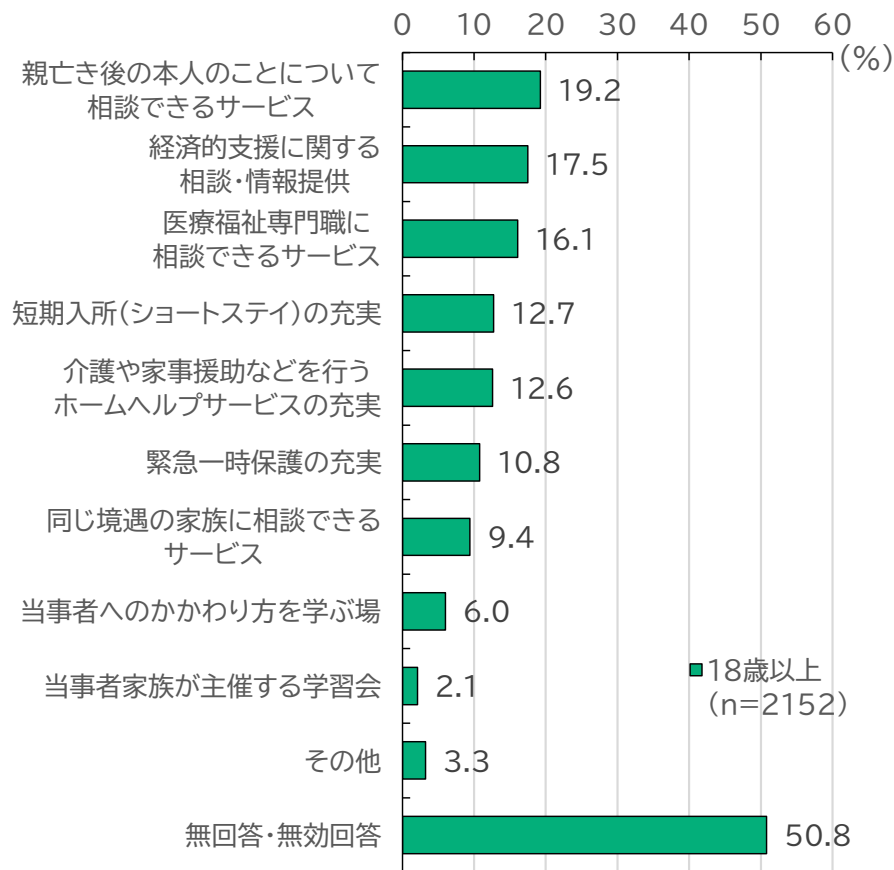
## (3)障がい者への取組として充実させてほしいこと(問43/問45)



- ◆ 障がい者への取組として充実させてほしいことについて、18歳以上・18歳未満それぞれの上位10項目を抜粋して比較すると、おおむね共通した項目が挙げられている。
- ◆ なお、18歳以上に特徴的な項目としては「医療やリハビリの充実」「災害時の支援体制の整備」が、18歳未満に特徴的な項目としては「療育や教育の充実」「日中活動の場の整備」が挙げられる。

# 1. 当事者の調査結果抜粋(18歳以上／18歳未満)

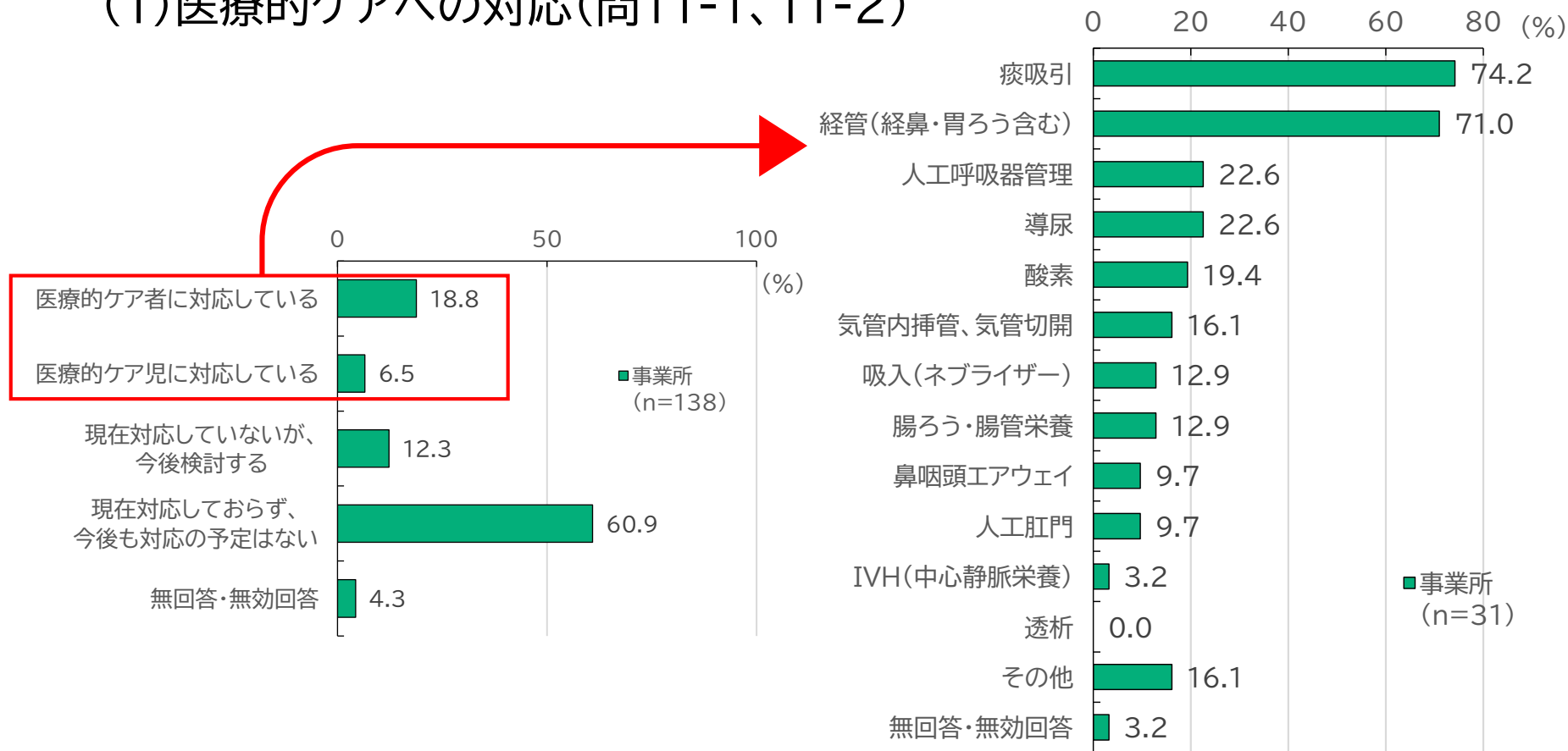
## (4) 家族への取組として充実させてほしいこと(問49/問52)



- ◆ 家族への取組として充実させてほしいことは、18歳以上でも18歳未満でも「親亡き後の本人のことについて相談できるサービス」が最も多くなっていた。
- ◆ なお、18歳未満では「同じ境遇の家族に相談できるサービス」「当事者への関わり方を学ぶ場」が上位に挙がっている。

## 2. サービス提供事業所の調査結果抜粋

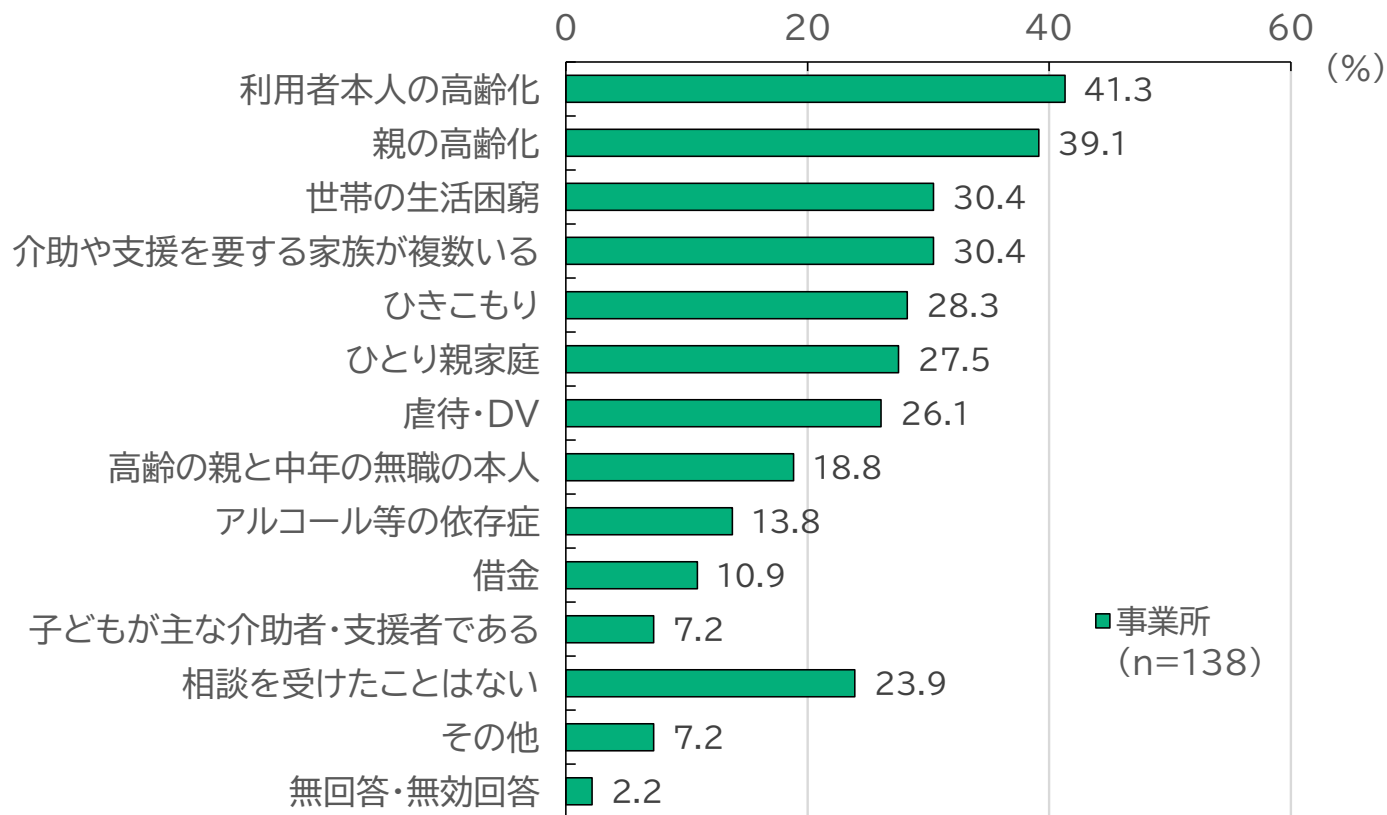
### (1) 医療的ケアへの対応(問11-1、11-2)



- ◆ 「医療的ケア“者“に対応している」事業所は18.8%、「医療的ケア”児”に対応している」事業所は6.5%だった。
- ◆ 対応している医療的ケアの内容は、「痰吸引」74.2%と「経管(経鼻・胃ろう含む)」71.0%が多く、続いて「人工呼吸器管理」と「導尿」が22.6%、「酸素」19.4%などとなっている。

## 2. サービス提供事業所の調査結果抜粋

### (2) 困難事例への相談対応状況(問13-1)



- ◆ 困難事例への相談対応状況としては、上位2項目を「利用者本人の高齢化」41.3%と「親の高齢化」39.1%が占めており、高齢化の課題についての相談が多くなっている。次いで、「世帯の生活困窮」と「介助や支援を要する家族が複数いる」が30.4%、「ひきこもり」28.3%、「ひとり親家庭」27.5%、「虐待・DV」26.1%などとなっている。なお、「相談を受けたことがない」が23.9%となっている。